

No.	027	—	1001	事務事業名	埋蔵文化財試掘・本発掘事業	細事務事業名		公的関与	6				
PLAN	課名	歴史民俗資料館	係名	学芸係	電話番号	089-964-0701	メールアドレス	rekimin@city.toon.ehime.jp					
	事業区分	ソフト事業		事業運営方法	直営・一部委託	実施計画	該当	事業期間	年度 ~ 年度 <input checked="" type="checkbox"/> 期間設定なし				
	総合計画	政策目標	第3章 心豊かに学びあう文化創造のまち		政策項目	4 芸術・文化の振興		主要施策	(3)文化財の保存・活用				
	事業の対象	周知の埋蔵文化財包蔵地内での土木工事等				根拠法令							
	事業の目的	最終的	周知の埋蔵文化財包蔵地内での土木工事等に先立ち、試掘・発掘調査を実施し、埋蔵文化財を保護すること			今年度							
	活動内容	①	土木工事等が周知の埋蔵文化財包蔵地に該当しないかどうかの事前協議を行います。(建設部局からの合議という方法で実施)			④	試掘・確認調査の報告書を作成します。						
		②	事業者から市へ周知の埋蔵文化財包蔵地での試掘・確認調査の依頼があれば、市は県へ届出を行い、試掘・確認調査の指示を待ちます。			⑤	出土物があった場合は遺失物法による届出を行います。(後に県から市へ譲り受ける。出土品は展示室等で活用します。)						
		③	市は県の指示に基づいて、試掘・確認調査を行います。(試掘・確認調査の一部は業者に委託して実施)										
	成果指標	指標名		計算式又は指標設定理由		単位	平成21年度	平成22年度	平成23年度	最終目標			
				事業の性格上、指標設定になじまない		目標							
				実績									
				目標									
				実績									
				目標									
				実績									
DO	予算費目	会計	一般会計		費目名	教育				費			
	直接事業費		平成 21 年度決算	平成 22 年度決算	平成 23 年度予算	備考							
		国・県支出金	0 千円	0 千円	56,312 千円	事業費は、民間土木工事と公共工事に係る試掘・確認調査委託料です。平成23年度予算が大幅に増額となっているのは、埋蔵文化財包蔵地内の揚り畑で大規模公共事業が予定されており、そのための試掘・確認調査の結果、発掘調査が必要となったため、県の委託を受け、本年度発掘調査を予定しています。							
		地方債	0 千円	0 千円	0 千円								
		その他特定財源	0 千円	0 千円	0 千円								
		一般財源	1,836 千円	4,447 千円	2,363 千円								
	計(A)	1,836 千円	4,447 千円	58,675 千円									
	人件費(B)	正職員工数・経費	0.050 人	378 千円	0.169 人	1,274 千円	0.169 人	1,249 千円					
		臨時職員工数・経費	0.000 人	0 千円	0.130 人	221 千円	0.130 人	218 千円					
	全体事業費(A+B)		2,214 千円		5,942 千円		60,143 千円						
一次評価者	学芸係	総合評価点	A	必要性	4	有効性	4	達成度	4	効率性	4	今後の方向性	現状維持
項目	評価項目の説明 (一次評価者のコメント)												
必要性	国民の財産である埋蔵文化財の保護のために、周知の埋蔵文化財包蔵地内での試掘・確認調査は必要です。												
有効性	試掘・確認調査の目的は、国民の財産である埋蔵文化財の保護にあります。土木工事等に先だち行う試掘・確認調査は、埋蔵文化財の保護目的のためには有効な手段です。												
達成度	周知の埋蔵文化財包蔵地内での試掘・確認調査は、建設部局から工事計画等について書類で合議(=事前協議)を行っています。埋蔵文化財が知らない間に破壊されることを防止する目的は達成されています。												
効率性	土木工事等のうち、周知の埋蔵文化財包蔵地内で実施されるものについて、試掘・確認調査を行います。実施方法は県の指示による。過去の試掘・確認調査のデータから工事立会にとどまる場合もあります。												
当面の課題	周知の埋蔵文化財包蔵地内での土木工事には、着手の60日前の事前協議が法定されています。土木工事等の計画段階で土地所有者の理解を求め、書類での事前協議を求めています。なかなか理解を得られないケースもあります。また試掘・確認調査は1名の考古担当の学芸員が当たっています。生じる件数や試掘・確認調査による結果は予見が不可能なため、計画的な実施は困難です。												
改革計画	試掘・確認調査業務の一部を委託することで対応しています。委託の一部とは、市職員の指導のもと、試掘・確認調査の現場での作業の委託です。												
二次評価者	生涯学習課長	総合評価点	A	必要性	4	有効性	4	達成度	3	効率性	4	今後の方向性	現状維持
二次評価での指摘事項	市民の理解を頂き、埋蔵文化財の保護の為の事業であることを十分に伝えてください。												

No.	027	—	1004	事務事業名	文化財保護事業		細事務事業名			公的関与	1		
PLAN	課名	歴史民俗資料館	係名	学芸係	電話番号	089-964-0701	メールアドレス	rekimin@city.toon.ehime.jp					
	事業区分	経常的事務事業		事業運営方法	直営・一部委託・補助等	実施計画	非該当	事業期間	年度 ~ 年度	<input checked="" type="checkbox"/>	期間設定なし		
	総合計画	政策目標	第3章 心豊かに学びあう文化創造のまち		政策項目	4 芸術・文化の振興		主要施策	(3)文化財の保存・活用				
	事業の対象	指定文化財（国・県・市の指定文化財所有者または管理責任者）				根拠法令	文化財保護法第3条						
	事業の目的	最終的	文化財の保護と活用			今年度							
	活動内容	①	重要文化財建造物の防災防火事業⇒重要文化財建造物の消防設備点検と防火訓練			④	指定文化財保存育成事業⇒指定文化財の所有者または管理責任者に対して、毎年、保存育成補助金または管理費補助金を交付						
		②	指定文化財等周辺の除草清掃⇒向井古墳、ビヤクシン、層塔及び五輪塔群等の除草清掃（一部委託）			⑤							
		③	指定文化財説明看板設置⇒毎年3カ所に新規設置										
	成果指標	指標名		計算式又は指標設定理由		単位	平成21年度	平成22年度	平成23年度	最終目標			
				文化財の保存・継承が目的のため、成果指標には適さない		目標							
				実績									
				目標									
				実績									
				目標									
DO	予算費目	会計	一般会計		費目名	教育		費					
	直接事業費		平成 21 年度決算	平成 22 年度決算	平成 23 年度予算	備考							
		国・県支出金	0 千円	0 千円	0 千円								
		地方債	0 千円	0 千円	0 千円								
		その他特定財源	0 千円	0 千円	0 千円								
		一般財源	1,583 千円	1,403 千円	1,650 千円								
	計(A)	1,583 千円	1,403 千円	1,650 千円									
	人件費(B)	正職員工数・経費	0.050 人	378 千円	0.410 人	3,091 千円	0.410 人	3,031 千円					
		臨時職員工数・経費	0.000 人	0 千円	0.048 人	82 千円	0.048 人	81 千円					
	全体事業費(A+B)		1,961 千円	4,575 千円	4,761 千円								
一次評価者	学芸係	総合評価点	A	必要性	4	有効性	4	達成度	4	効率性	4	今後の方向性	現状維持
項目	評価項目の説明（一次評価者のコメント）												
必要性	文化財は保存・伝承により後世に継承されます。文化財の所有者や継承団体による保存・伝承は、国民の財産である文化財の保存・伝承そのものといえます。特に指定文化財の保護については、行政が保護する必要があります。												
有効性	文化財に対する認識や歴史的価値観の周知等を正しく行うことは、地域に伝わる文化財の保存、活用、再発見等に繋がります。文化財の保護（保存・伝承）は、郷土の文化の継承に有益であると考えられます。												
達成度	指定文化財の保存や伝承は問題なく継承されています。また後世に引き継いでいくことが必要であるため、今後も文化財保護活動を継続していきます。現在のところ、伝承事業の衰退や指定文化財の破損（天然記念物の枯死を除く）はありません。												
効率性	文化財の保存・伝承は、有形文化財、天然記念物、無形民俗文化財によって方法等が異なります。そこで、国や県などからそれぞれに適した保存・伝承の情報や方法を取り入れ、実施していきます。												
当面の課題	指定文化財の保存や活用は、所有者や伝承者の協力が不可欠です。県の文化財巡視員からの巡視情報をはじめ、必要な情報の提供に努めています。												
改革計画	指定文化財の所有者や伝承者が行う保存や伝承の状況について、年1回の市補助金支給時に文書で報告を受けています。その報告に基づいて現地調査を行うなど、文化財所有者や管理責任者と協力しあえる体制づくりに努めています。												
二次評価者	生涯学習課長	総合評価点	A	必要性	4	有効性	4	達成度	3	効率性	4	今後の方向性	現状維持
二次評価での指摘事項	市内の文化財を保存・伝承出来るよう、最善の方法を検討してください。												

No.	027	—	1009	事務事業名	向井古墳史跡公園整備事業	細事務事業名		公的関与	1				
PLAN	課名	歴史民俗資料館	係名	学芸係	電話番号	089-964-0701	メールアドレス	rekimin@city.toon.ehime.jp					
	事業区分	ハード事業		事業運営方法	直営・一部委託	実施計画	該当	事業期間	年度 ~ 年度 <input checked="" type="checkbox"/> 期間設定なし				
	総合計画	政策目標	第3章 心豊かに学びあう文化創造のまち		政策項目	4 芸術・文化の振興		主要施策	(3)文化財の保存・活用				
	事業の対象	向井古墳（北吉井樋口地区にある6世紀の古墳）				根拠法令							
	事業の目的	最終的	向井古墳を史跡公園として整備しようとする事業です。墳丘部を中心に、史跡として保存します。子どもをはじめ市民が郷土史を学ぶ場所として、また身近な史跡公園として利用することを目的としています。			今年度	向井古墳史跡整備プランの策定を行います。						
	活動内容	①	古墳周辺の除草作業を毎年3回実施			④							
		②	向井古墳史跡整備検討委員会で検討し、整備プランを策定します。			⑤							
		③											
	成果指標	指標名		計算式又は指標設定理由		単位	平成21年度	平成22年度	平成23年度	最終目標			
				事業の性質上、指標設定には、なじまない		目標							
				実績									
				目標									
				実績									
				目標									
				実績									
ODO	予算費目	会計	一般会計		費目名	教育		費					
	直接事業費		平成 21 年度決算	平成 22 年度決算	平成 23 年度予算	備考							
		国・県支出金	0千円	0千円	0千円	21年度は、遺跡調査報告書作成費、22年度は、整備プラン策定委託料、23年は、利活用計画策定委託料が主な内容です。							
		地方債	0千円	0千円	0千円								
		その他特定財源	0千円	0千円	0千円								
		一般財源	937千円	0千円	847千円								
	計(A)	937千円	1,441千円	847千円									
	人件費(B)	正職員工数・経費	0.050人	378千円	0.039人	294千円	0.039人	288千円					
		臨時職員工数・経費	0.000人	0千円	0.039人	66千円	0.039人	66千円					
	全体事業費(A+B)		1,315千円		1,801千円		1,201千円						
一次評価者	学芸係	総合評価点	A	必要性	4	有効性	4	達成度	3	効率性	3	今後の方向性	現状維持
項目	評価項目の説明（一次評価者のコメント）												
必要性	市民の貴重な財産である古墳遺跡を行政は、保存・継承していく必要があります。												
有効性	地域の文化財の保存・継承は、郷土の文化の向上に有益です。												
達成度	向井古墳を史跡として整備するため、整備検討委員会を立ち上げ、整備方法を検討しております。年次計画により、23年度は利活用計画を策定し、翌年度以降、実施設計、史跡整備と進みます。												
効率性	向井古墳の整備方法は、遺跡整備に実績のある業者の提案するプランをベースに遺跡保存の専門家、有識者、地元自治会関係者で構成する整備検討委員会において検討しています。												
当面の課題	利活用計画の策定にあたり、多くの人に継続して利用してもらうための工夫が課題です。												
改革計画	史跡公園として、気軽に市民の皆さんに来ていただくためには、地域文化の学習の場だけでなく、憩いの場としての公園整備を加味する必要があります。												
二次評価者	生涯学習課長	総合評価点	C	必要性	3	有効性	3	達成度	3	効率性	3	今後の方向性	現状維持
二次評価での指摘事項	整備検討委員会で、今後の利活用方法について充分検討し、計画を策定してください。												

No.	027	—	1014	事務事業名	歴史民俗資料館	係名	学芸係	電話番号	089-964-0701	メールアドレス	rekimin@city.toon.ehime.jp	公的関与	5
事業区分	ソフト事業		事業運営方法	直営	実施計画	非該当	事業期間	年度 ~ 年度	<input checked="" type="checkbox"/> 期間設定なし				
総合計画	政策目標	第3章 心豊かに学びあう文化創造のまち			政策項目	4 芸術・文化の振興			主要施策	(3)文化財の保存・活用			
事業の対象	市民						根拠法令						
事業の目的	最終的	歴史民俗資料館が郷土の歴史を学ぶ場となること					今年度	郷土史講座、れきみん講座(勾玉作りや麦わら細工など)の講座の開設と企画展示により、市民に興味を持ってきてもらえる館の活動を目指します。					
活動内容	①	東温史談会と共催で年6回の郷土史講座を開催します。					④	小中学校の児童生徒の郷土史学習を支援します。					
	②	親子で体験する講座で、①勾玉作り、②麦わら細工の2講座を実施しています。					⑤						
	③	出前講座による郷土史や文化財についての学習活動を支援します。											
成果指標	指標名		計算式又は指標設定理由			単位	平成21年度	平成22年度	平成23年度	最終目標			
			事業の性格上、指標設定になじまない			目標							
						実績							
						目標							
						実績							
						目標							
					実績								
予算費目	会計	一般会計				費目名	教育				費		
直接事業費		平成 21 年度決算	平成 22 年度決算	平成 23 年度予算	備考								
	国・県支出金	0 千円	0 千円	0 千円									
	地方債	0 千円	0 千円	0 千円									
	その他特定財源	0 千円	0 千円	0 千円									
	一般財源	276 千円	101 千円	190 千円									
計(A)	276 千円	101 千円	190 千円										
人件費(B)	正職員工数・経費	0.050 人	378 千円	0.100 人	754 千円	0.100 人	739 千円						
	臨時職員工数・経費	0.050 人	86 千円	0.100 人	170 千円	0.100 人	168 千円						
全体事業費(A+B)		739 千円	1,025 千円	1,097 千円									
一次評価者	学芸係	総合評価点	A	必要性	4	有効性	4	達成度	3	効率性	4	今後の方向性	現状維持
項目	評価項目の説明 (一次評価者のコメント)												
必要性	郷土史講座とれきみん講座は、館の活動を広報し、利用者の増大を図るために有益です。親子で体験できる勾玉づくり、麦わら細工などは、歴史民俗資料館が郷土史を学ぶ場所であることをPRする重要な事業です。												
有効性	各講座とも定員を超過する申し込みがあります。継続することは有益です。												
達成度	郷土史講座、れきみん講座、出前講座の開設のほか、小中学校児童生徒や各種の団体による施設見学を行います。見学を通じて郷土の歴史を学ぶことのよさを伝え続けます。												
効率性	講座は職員(学芸員2名)が指導者となって開設しています。講座はイベント方式を主眼に、参加人数の増加を進めています。(郷土史講座は講師を招いています。)												
当面の課題	講座に参加してもらうことで歴史民俗資料館の活動を広報し、ひいては展示見学者の増大へとつなげることが課題です。講座の開設は有益です。												
改 革 画	より多くの市民が参加できるように、イベント方式での実施を検討します。講座の運営方法や募集についても検討します。												
二次評価者	生涯学習課長	総合評価点	A	必要性	4	有効性	3	達成度	3	効率性	4	今後の方向性	現状維持
二次評価での指摘事項	歴史民俗資料館の活動をPRするいい手段となっています。出席者の意見も聞きながら講座を検討してください。												

No.	027	—	1015	事務事業名	企画展・特別展等の公開事業	細事務事業名		公的関与	8				
PLAN	課名	歴史民俗資料館	係名	学芸係	電話番号	089-964-0701	メールアドレス	rekimin@city.toon.ehime.jp					
	事業区分	ソフト事業		事業運営方法	直営	実施計画	非該当	事業期間	年度 ~ 年度 <input checked="" type="checkbox"/> 期間設定なし				
	総合計画	政策目標	第3章 心豊かに学びあう文化創造のまち		政策項目	4 芸術・文化の振興		主要施策	(4)歴史民俗資料館の充実				
	事業の対象	市民				根拠法令							
	事業の目的	最終的	歴史民俗資料の収集、歴史民俗資料館での保存及び展示公開			今年度	季展のほか、向井古墳出土物、西岡焼出土物の展示を行います。						
	活動内容	①	歴史民俗資料の収集、分類整理、収蔵。展示、講座等の広報(ホームページ・広報紙への掲載)			④	歴史民俗資料館ロビー展⇒収蔵品の中からテーマを絞って行う企画展						
		②	第1展示室での展示公開⇒常設展「東温市の歴史」			⑤	川内公民館ロビー展⇒「揚り畑遺跡出土品の展示」						
		③	第2展示室での展示公開⇒収蔵品を使った東温市に関する企画展										
	成果指標	指標名		計算式又は指標設定理由		単位	平成21年度	平成22年度	平成23年度	最終目標			
		入館者推移		(前年度入館者数÷今年度入館者数) × 100 = 伸び率		人	目標 4,000	4,000	4,000	4,000			
					実績 3,742	3,489							
					目標								
					実績								
DO	予算費目	会計	一般会計		費目名	教育				費			
	直接事業費		平成 21 年度決算	平成 22 年度決算	平成 23 年度予算	備考							
		国・県支出金	0 千円	0 千円	0 千円	経費は展示用消耗品等です。							
		地方債	0 千円	0 千円	0 千円								
		その他特定財源	0 千円	0 千円	0 千円								
		一般財源	778 千円	679 千円	700 千円								
	計(A)	778 千円	679 千円	700 千円									
	人件費(B)	正職員工数・経費	0.100 人	755 千円	0.560 人	4,221 千円	0.560 人	4,140 千円					
		臨時職員工数・経費	0.100 人	171 千円	0.510 人	868 千円	0.541 人	909 千円					
	全体事業費(A+B)		1,705 千円		5,768 千円		5,748 千円						
一次評価者	学芸係	総合評価点	A	必要性	4	有効性	4	達成度	4	効率性	4	今後の方向性	現状維持
項目	評価項目の説明 (一次評価者のコメント)												
必要性	館の企画展・季節展は、東温市内で収集・寄贈された資料です。東温市の歴史や民俗について展示しています。東温市の歴史を学べる収集・展示を行っており、今後とも必要です。												
有効性	東温市に関する歴史・民俗資料の収集・展示を行うことは、東温市の歴史や民俗に関する文化を保存することにつながっています。展示は市民が先人の文化に触れる機会であり、継続すべき有益な事業です。												
達成度	収蔵品の中からテーマを設定して展示を企画しています。展示は年間計画によって行われています。広報誌のほか、市HP掲載、市内小中学校への案内などにより、展示の内容をPRしています。												
効率性	展示は職員(学芸員2名)により行われています。川内公民館とさくらの湯においても写真パネル展なども行っています。展示企画の立案からキャプション作成まで職員の自作です。外注などはありません。												
当面の課題	展示と表裏一体で重要なのは収蔵場所です。歴史民俗資料館の特別収蔵庫、第1収蔵庫に収まりきらない収蔵物は、川内支所第二別館、旧重信町給食センターとなっています。収蔵場所が分散しているので、統一的な収蔵場所の確保が必要です。												
改計画	歴史民俗資料館の展示スペースと収蔵スペースの確保のため、現在の事務室隣の会議室を有効利用する方向で検討します。												
二次評価者	生涯学習課長	総合評価点	A	必要性	4	有効性	4	達成度	3	効率性	4	今後の方向性	現状維持
二次評価での指摘事項	少ない展示場所の有効利用を図り、市内の歴史や民俗を学べる場としてください。												

No.	027	—	1020	事務事業名	歴史民俗資料館運営事務	細事務事業名		公的関与	6				
PLAN	課名	歴史民俗資料館	係名	学芸係	電話番号	089-964-0701	メールアドレス	rekimin@city.toon.ehime.jp					
	事業区分	施設の維持管理		事業運営方法	直営	実施計画	非該当	事業期間	年度 ~ 年度 <input checked="" type="checkbox"/> 期間設定なし				
	総合計画	政策目標	第3章 心豊かに学びあう文化創造のまち		政策項目	4 芸術・文化の振興		主要施策	(4)歴史民俗資料館の充実				
	事業の対象	歴史民俗資料館				根拠法令							
	事業の目的	最終的	歴史民俗資料館の管理			今年度							
	活動内容	①	歴史民俗資料館の修繕			④	備品の購入						
		②	歴史民俗資料館展示室のクリーニング清掃			⑤							
		③	事務用消耗品等の購入										
	成果指標	指標名		計算式又は指標設定理由		単位	平成21年度	平成22年度	平成23年度	最終目標			
				事業の性格上、指標設定になじまない		目標							
				実績									
				目標									
				実績									
				目標									
				実績									
DO	予算費目	会計	一般会計		費目名	教育			費				
	直接事業費		平成 21 年度決算	平成 22 年度決算	平成 23 年度予算	備考							
		国・県支出金	0 千円	0 千円	0 千円								
		地方債	0 千円	0 千円	0 千円								
		その他特定財源	0 千円	0 千円	0 千円								
		一般財源	1,320 千円	1,015 千円	1,590 千円								
	計(A)	1,320 千円	1,015 千円	1,590 千円									
	人件費(B)	正職員工数・経費	0.050 人	378 千円	0.050 人	377 千円	0.050 人	370 千円					
		臨時職員工数・経費	0.010 人	17 千円	0.010 人	17 千円	0.010 人	17 千円					
	全体事業費(A+B)		1,715 千円	1,409 千円	1,976 千円								
一次評価者	学芸係	総合評価点	A	必要性	4	有効性	4	達成度	4	効率性	4	今後の方向性	現状維持
項目	評価項目の説明 (一次評価者のコメント)												
必要性	施設の管理では、収蔵庫、展示室の空調管理が重要です。また施設の大規模改修については、図書館と一体のため、図書館との協力が大事となります。												
有効性	収蔵物を損なわない管理が重要です。また、展示施設でもあるため来館者が利用しやすい環境の保持と情報提供に努めています。												
達成度	施設の大規模な改修工事等は予定されていませんが、修繕については速やかに対応し、来館者の方へ不都合が生じないようにしています。												
効率性	市立図書館の3階にあります。そこで階段壁面に展示PR用のパネルを掲示しています。												
当面の課題	建物自体が築20年以上経過しており、老朽化による修繕箇所が年々増加しています。												
改革計画	会議や講座は図書館2階の会議室や中央公民館を利用しています。老朽化や耐震対策など大規模な修繕工事については、図書館の将来の大規模改修計画に含めて行います。												
二次評価者	生涯学習課長	総合評価点	A	必要性	4	有効性	4	達成度	3	効率性	4	今後の方向性	現状維持
二次評価での指摘事項	来館者が利用しやすい、入館しやすい、雰囲気作りに努めてください。												

No.	027	—	1021	事務事業名	旧町誌編纂事務	細事務事業名		公的関与	6				
PLAN	課名	歴史民俗資料館	係名	学芸係	電話番号	089-964-0701	メールアドレス	rekimin@city.toon.ehime.jp					
	事業区分	ソフト事業		事業運営方法	直営	実施計画	非該当	事業期間	年度 ~ 年度 <input checked="" type="checkbox"/> 期間設定なし				
	総合計画	政策目標	第3章 心豊かに学びあう文化創造のまち		政策項目	4 芸術・文化の振興		主要施策	(4)歴史民俗資料館の充実				
	事業の対象	旧町誌（重信町誌及び川内町新誌）が編纂されてから東温市となった平成16年9月21日までの間の町誌の編纂				根拠法令							
	事業の目的	最終的	旧町誌の続編として平成23年度末までに編纂、刊行、販売をします。			今年度	旧町誌の続編として平成23年度末までに編纂、刊行、販売をします。						
	活動内容	①	編纂委員会の基本方針に基づき、入札により業者を決定します。			④							
		②	編纂・編集・印刷製本業務を、編纂員と協議しながら進めます。			⑤							
		③	年度末までに刊行し、市民向けに販売を行います。										
	成果指標	指標名		計算式又は指標設定理由		単位	平成21年度	平成22年度	平成23年度	最終目標			
				事業の性格上、指標設定になじまない		目標							
				実績									
				目標									
				実績									
				目標									
				実績									
DO	予算費目	会計	一般会計		費目名	教育			費				
	直接事業費		平成 21 年度決算	平成 22 年度決算	平成 23 年度予算	備考							
		国・県支出金	0千円	0千円	0千円	平成23年度、刊行に向けて編纂・編集・印刷製本業務を業者委託する予算計上しているため、予算額が増額となっています。							
		地方債	0千円	0千円	0千円								
		その他特定財源	0千円	0千円	0千円								
		一般財源	4,418千円	2,114千円	15,067千円								
	計(A)	4,418千円	2,114千円	15,067千円									
	人件費(B)	正職員工数・経費	0.050人 378千円	0.050人 377千円	0.050人 370千円								
		臨時職員工数・経費	2.000人 3,422千円	2.000人 3,404千円	2.000人 3,360千円								
	全体事業費(A+B)		8,218千円		5,895千円		18,797千円						
一次評価者	学芸係	総合評価点	B	必要性	4	有効性	4	達成度	1	効率性	4	今後の方向性	現状維持
項目	評価項目の説明（一次評価者のコメント）												
必要性	旧町誌続編の編纂は自治体の沿革史であり、市が主体となって実施する必要があります。												
有効性	旧町誌続編の編纂は、旧町から合併までの期間を対象としています。収集された資料は、将来の市史編纂に活用されます。												
達成度	平成22年度末の原稿提出期限が過ぎ、原稿の提出が遅れている執筆者がおり、急ぎ、原稿提出をお願いしています。												
効率性	執筆者、編纂員、担当職員が協力し、今年度刊行に向けて連携強化に努めます。												
当面の課題	実際、執筆が遅れており、入札により業者選定が出来ないため業者を交えた編纂業務に入れられない状況です。一日も早く執筆完了していただくことにつきます。												
改訂計画	執筆状況の詳細把握と、編纂員、担当職員の協力(資料の提供等)が必要です。												
二次評価者	生涯学習課長	総合評価点	B	必要性	4	有効性	4	達成度	1	効率性	4	今後の方向性	現状維持
二次評価での指摘事項	予定どおりの刊行に向けて、作業を進めてください。												